

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2019年  
5月7日発行  
第202号

## 自分に合った取り組み方を見つけよう！

青葉若葉の美しい頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育にご理解、ご協力いただき深く感謝いたします。

さて、新学年が始まり、1ヶ月がたちました。不登校の状態にある子どもたちが自分の属していた共同体に橋を架け、もう一度その中で活動を始めようとするためには、どんなことが大切なことになるのでしょうか。教師は何を求められ、保護者は何を求められるのでしょうか。子どもたちが今の自分に合った行動を見つけ出すために、私たち大人は何ができるのでしょうか。

現代社会に生きる私たち大人は、膨大な情報にさらされ、スピードを持ってそれに答えることが要求されていますし、また、あらゆることに対して早くできること、正しく答えることが求められるような社会に生きています。表面的に対応する生き方になります。同時に、子どもたちも、自分の思いや考えをじっくりつかむということや、子どもなりに感じていることを素直に表現するということができなくなっています。辛いことがあれば心の底に押し込め、何もなかったかのように明るく振る舞う…。深刻なことは避けて通るようになっていきます。が、本当は、心の底に押し込めたものを何とかしたいと思っています。不登校の状態にある子どもたちが、本当は自分のことをどのように思っているのかを知ることができるようになった時、次のように作文に書いています。

「私が不登校をしだしたのは中学1年の頃でした。学校へ行かないのではなく、行けない。なぜなんだろうと自問自答を繰り返しても分からないのです。ただただ苦しくて、情けなくて、悲しくて、学校へ行けない自分を最低だと思い、私の心は劣等感という鎖でがんじがらめにされているようでした。自分を殺してしまおうかと思うくらい、『私』という人間が大嫌いで、自分なんか生きている意味がないと思っていました。」「周りの人は、不登校のことを悪いことと考え、私の事もまるでゴミを見るような目で見てくる。私のことなど分かってくれない。」

このように生徒たちは「行きたくても行けないし、どうすることもできない」ことを目の当たりにして悩み、苦しむうつむいて、そこに佇んでいます。「人の目が気になって」外に出られず、気が晴れることはありません。子どもたちのこういう現実を理解しようとするところから、親と子、教師、共に突破口が開かれるのかも分かりません。何より、子どもが今日、活動できるようになり、正しく生きる方向をつかむことになるでしょう。難しいことですが、共に手を携えてやってみましょう。4/19 ハイキング「天橋立」  
そのためにも、保護者面談をお取りください。



### <今月の主な行事>

16日(木) 音楽(ギター教室)

17日(金) ハイキング

21日(火)・28日(火) 中国語教室

22日(水) 陶芸教室

23日(木) 釣り大会

24日(金) 月例保護者会 19:30～

26日(日) 創立記念日「五月祭」

11:00～